



徳成寺

寺比から版 第147号 2019年3月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

3月に入り、卒業シーズンを迎えます。お坊さんの学校を

卒業した頃、ある先生から卒業文集に寄せられた言葉が思い

出されます。「卒業とは、人生に母港を持つことだ」で始まる

文章でした。どんな旅に出かけても、帰るところが定まっていなければ

それは迷っているに過ぎません。帰って行く母港が定まるからこそ、人生の

荒波に立ち向かっていけるのだとのメッセージが込められています。江戸末期の

幕臣・山岡鉄舟も「晴れてよし 曇りてもよし 富士の山 もとの姿は

変わらざりけり」と表現しています。どんな時も仰ぎ見る人生の方向性を

見失ってはならんと教えています。卒業するしないに関わらず、人生の

母港を大切に参りましょうね。

一 発行責任者

住職

大山健児

坊守

大山なとみ



*子供おつとめ本を、ご希望の方はご一報下さい。

大山超世の耳を澄ませば

お世話になっています、長男です。

生まれて初めて男木島に行きました。ウェブサービスの講習会で男木島に行くことになりましたが、初めて降り立つ男木島は瀬戸内芸術祭の関係でなんだかアーティスティックな感じになっていました。

講習会という事で緊張していたのですが、島ならではのどかな風景、道行く猫の姿に癒され和やかな気持ちになり、目的の講習会も良い雰囲気で見ることができてとても良かったです。暇が出来たらまた行って見たいと思いました。

写真はフェリーから撮った男木島の様子です。

